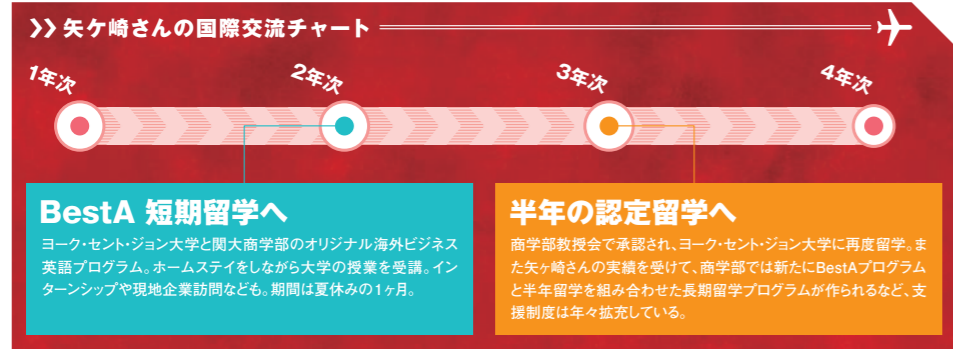


# すべての学部が、世界への道につながる。



## 商学部の場合

### 世界を肌で感じた二度の留学。 私の視野を広げ、 挑戦する大切さを教えてくれた。



商学部商学科マネジメント専修 3年次

## 矢ヶ崎 千恵

多彩な人が多いキャンパスの活気に惹かれて関西大学へ。以前は「自発的に動くタイプではなかった」が、「関大に入って変わった」という。彼女を変えたのは「周囲の影響。関大は自分から動く人が多いから」。今は何事にも積極的。二度目の留学では、留学先大学への連絡や手続きも「自分でやってみようと思って」やり遂げた。留学時のクラスメイトとは今もウェブのfacebookで交流したり、スカイプ電話で話したりしている。



York [ヨーク]  
イングランド北部  
ノース・ヨークシャー州の都市  
人口は約186,700人(2005年推定)

### 2年夏、短期留学でイギリスへ カルチャーショックが進路を変えた

「ビジネスを学びたい」と商学部へ。そして「世界を知るために」海外へ留学。いま、彼女のように、専門をグローバルなセンスで学ぼうとする学生が増えている。グローバル化が進むなか、専門性と国際性が融合したしなやかな知を社会が必要としているからだ。

商学部商学科の矢ヶ崎千恵さん。「大学に行ったら一度は留学したい」。入学前から思い定めていた。夢が叶ったのは2年の夏。関大商学部独自の留学プログラム「BestA」に応募し、参加が認められたのだ。

イギリスの大学でビジネスを英語で学び、語学力と国際ビジネスセンスを同時に磨くことのできるユニークなプログラムだ。期間は1ヶ月。ここで矢ヶ崎さんは大きな衝撃を受けた。「文化がちがう。常識がちがう。世界って広い」。一見ささいな事柄の背後に、さまざまな事情が絡み合っている。たとえばスーパーのカート。イギリスでは日本よりずっと大きい。なぜか。二つの理由が融合している。ひとつは、女性の社会進出が進んだイギリスでは、共働きの家庭が多いこと。もうひとつは、スーパーは軒並み夕方5時には閉まってしまうこと。必然的に大量の買い置きが必要になる。だからカートが大きい。ポーションも大きい。日本で野菜の1個売りや小パック化が進んでいるのと同対照的である。

カルチャーショック満載の留学経験。矢ヶ崎さんは新たな夢を抱く。「もっと世界を知りたい。もう一度留学したい」。2年生の秋だった。

### 1年後、5ヶ月間の認定留学へ 「これが世界なんだ」

もっと長く留学したい。けれど休学は経済的に厳しい。やはり無理かと諦めかけた時、認定留学制度を知った。認定留学は、関西大学の海外留学プログラムのひとつ。単位が認定されるから4年間で卒業で

ビジネスも、学問も、テクノロジーも、今やすべてがグローバルです。何を専門に学ぶとしても、将来どんな職業に携わるとしても、フィールドは「世界」。だから、関西大学では、文理13のすべての学部で、積極的な国際化に取り組み、世界を見据えた学びを展開しています。今回は、その一例として、ある商学部生のケースを紹介します。



▲仲良くなったロシア人のマリーヤと、ビッグ・ベンの前で。



▲とっってもあたたかかったホストファミリー。

きる。「これなら行ける」。3年になった矢ヶ崎さんは再びイギリスへ飛んだ。

学部から集団で留学した前回とはちがひ、今度は単身での渡英。クラスは世界各国からの留学生が学ぶグローバルな環境。授業中も発言は活発で、自分から声を上げないと取り残されてしまう。最初はひるんだ。だが滞在期間はたった5ヶ月。気おくれしているヒマはない。勇気を奮い起こして、手を挙げた。英語が出てこず言葉につまっても、うまく喋れなくても、積極的にがんばろうとする姿勢を、クラスメイトは好意的に受け入れてくれた。フランス人、ロシア人、トルコ人、スペイン人、韓国人、中国人。アフガニスタン、パキスタン、ボスニア=ヘルツェゴビナといった、ニュースの中でしか知らなかった国からの留学生もいた。「これが世界なんだ」。理屈ではなく、肌で感じた。

日本がどう見られているかも新鮮だった。「サムライってどうなの?」「そんなの知らないよ!」。だが、いろいろ訊かれてみて初めて、自分がいかに「日本」を知らないかも痛感した。

### 「いつか、自分で 輸入雑貨店を経営したい」

二度の留学経験から、矢ヶ崎さんが学んだこと。それは、視野を広げ、自分から挑戦することの大切さ。そしてどんなことでも受け入れてみることの大切さだ。「多くの人に会い、多様な価値観に触れることで、

選択肢も広がる」

世界各国に友達ができただけで、興味関心の対象は大きく広がった。EU、ロシア経済。今はとても身近に感じている。

将来のビジョンも定まった。「自分で輸入雑貨店を経営したい」。以前から漠然と「将来は国際ビジネスに関わりたい」と思っていたが、夢が具体的になった。それに伴って、学科の専修も、以前の国際ビジネス専修からマネジメント専修へと変更した。「自分で店を経営する」という目標に向けての第一歩だった。

だが、「もっと早く行けばよかった」。二度目の留学から帰国したのは3年の秋。ここで学べるのはあと1年。二度の留学がもう一年ずつ早ければ、「あと2年学べた」。「だから留学は絶対に早い方がいい。まずは1年の夏に行ってみておきたい」

これから進学する後輩に向けて、熱くすすめる。

彼女自身の今後の目標は、もっと世界を知ること。「旅行もしたいし、もう一度留学もできれば。次に行くならカナダに学部留学」。また、多数の外国人留学生が学ぶ関大だけに、キャンパスで国際交流のできる環境もある。学生が留学生をサポートする国際コミュニティ「KUブリッジ」もそのひとつ。自分の留学体験も生かせるこうした活動にも積極的に関わっていきたくて意欲を見せる。

## 関西大学から世界へ

関西大学をグローバル化する。関西大学が学生や社会をグローバル化する存在となる。それが関西大学のビジョンです。協定大学数は全世界に53校(2010年9月現在)。交換留学からキャンパスの国際化による学内交流まで、さまざまな国際交流を通して、「世界」に通用する人になってください。

※下記留学については募集対象を限定している場合があります。詳しくについてはパンフレットなどをご参照ください。

### 交換派遣留学

世界に53の協定大学。1年間留学します

学生交換協定を結んでいる外国の大学に1年間留学。留学期間は在学年数に算入、卒業所要単位認定。留学先大学の授業料は関西大学に納入する学費で充当され、奨学金給付制度も用意されています。

### 認定留学

専門分野を外国で学ぶ、学部認定の長期留学

期間は1学期間または2学期間。所属学部の教授会で認定留学として承認されると、留学期間は在学年数に算入、留学先での取得単位は卒業所要単位に認定され、本学授業料は免除されます(在籍料1学期10万円)。

### 海外語学セミナー

誰もがチャレンジできるファーストステップ

夏休みや春休みを利用して行う4〜5週間のプログラム。生きた外国語や異文化、歴史、生活習慣に肌で触れて国際感覚を養う有意義な機会。選考試験はなく、誰でもチャレンジでき、毎年多数の学生が利用しています。

## 大学内で気軽に国際交流! [KUブリッジ]

「KUブリッジ」は、日本人学生グループによる外国人留学生のサポート活動です。来日時のボランティアやアテンド、季節のイベントで留学生と日本人学生の交流を図る定例活動「KUブリッジ寺子屋」もスタート。キャンパス内国際コミュニティのひとつとして、インターナショナルな交流拠点となっています。



## 国際交流TOPICS

### 外国語学部は、全員が1年間留学

「外国語のプロフェッショナル」を育てる外国語学部では、2年次にはすべての学部生が海外の提携大学に1年間留学します(Study Abroadプログラム)。留学先は、アメリカ・イギリス・中国など。こうした長期留学を必修とする学部は全国でもまだ数少なく、国際社会に通用する「言葉の力」の習得をめざす人にとって理想的な学習プログラムと言えるでしょう。



### 各学部独自の国際交流プログラム

#### 【経済学部】経済学部国際化プログラム

英語圏、中国語圏に夏・春・冬の休暇を利用して短期留学。外国語で経済を学び、ディスカッションやプレゼンテーションを経験。現地の経済情勢も体感しながら、国際経済の専門知識習得をめざします。

#### 【政策創造学部】国際教育プログラム

レベル別クラス編成や、外国人教員による少人数教育のほか、フィールドワーク、外国語を通じた政策事例研究、プレゼンテーションなどで実践的に英語を活用。海外英語研修も取り入れた実践的な国際教育プログラムを展開しています。

【商学部】英語に強いプロアクティブリーダーの養成  
左記で紹介した「BestA」の他、国際派ビジネスリーダーを育成する「BLSP(ビジネスリーダー特別プログラム)」があります。